

# 知的障害特別支援学校高等部における前向きに進路学習 に取り組もうとする生徒の育成

—— 進路学習指導資料、進路相談資料の作成と活用を通して ——

長期研修員 板羽 洋一

## 《研究の概要》

本研究は、知的障害特別支援学校高等部において3年間で身に付けたい力をまとめた「進路学習指導内容表」をベースに、進路学習や進路相談をサポートする教師向けの資料を作成し活用することにより、前向きに進路学習に取り組もうとする生徒の育成を目指したものである。「進路学習指導資料」として、題材ごとに「解説シート」「授業案」「ワークシート」を作成し、学校現場で多忙な教師がすぐに利用できるようにした。また、「進路相談資料」は、特別支援学校の経験が少ない教師が就労に関する専門用語や福祉制度などを保護者に分かりやすく説明できるようにまとめたものである。本研究では、これらの資料の作成と活用を通して、その有効性を明らかにしたものである。

**キーワード** 【特別支援教育 知的障害 高等部 進路学習 進路相談】

群馬県総合教育センター

分類記号：I 0 1 - 0 4 平成27年度 2 5 5 集

## I 主題設定の理由

文部科学省の平成19年4月の「特別支援教育の推進について（通知）」では、「進路指導の充実と就労の支援」として、「障害のある生徒が、将来の進路を主体的に選択することができるよう、生徒の実態や進路希望等を的確に把握し、早い段階からの進路指導の充実を図ること」とある。

また、群馬県においては、平成26年3月の「第2期群馬県教育振興基本計画」では、「本県の特別支援学校高等部生徒の一般就労率は、毎年30%以上を維持しており、全国的に見ても高い数値になっている。しかし、職業学科において一般就労に至らない生徒もおり、就労意欲を高めたり、就労に必要な技能を身に付ける指導を充実させることが必要である」とある。その主な取組内容として、「特別支援学校の生徒及びその家族が、生徒の卒業後の進路に対する意識を早い段階から高められるよう、高等部1年生の時から企業関係者や関係機関の協力を得ながら、進路指導の充実に努める」という方向性が示されている。

研究協力校は、高等部設置校としては県内最北の特別支援学校である。そのため、生徒は県北部の広範囲から通学している。知的障害の程度も軽度から重度まで幅広く、卒業後の進路も福祉サービス事業所への通所から一般事業所への就労まで様々である。また、生徒が居住している地域の多くは、自宅周辺に通所や通勤できる事業所が少ないため、遠距離を時間をかけて通ったり、卒業と同時に自宅を出て生活したりしている。近年ではその形態も様々で、グループホームや親戚宅、アパートでの一人暮らしなどがあり、地理的状況や家庭の状況によっても異なっている。その場合、就労先と同時に、市町村の福祉課や障害者就業・生活支援センターなど関係機関と連携しながら生活の場を探し、見学や体験を行うことになる。生徒にとっては、就労と合わせて生活の場への適応という、二つのハードルを抱えることになる。保護者にとっても、先行きの見えない我が子の進路と同時に、年々変化している福祉制度の仕組みに、漠然とした不安を感じている。

一方、研究協力校では進路指導に主として関わるのは、生徒が在籍する学級担任である。学級における進路学習は、作業学習、生活単元学習、総合的な学習の時間、ロングホームルームの時間に実施しているが、職場体験や現場実習に関する事前学習や事後学習の指導が中心である。学級担任は、多忙な時間の中でそれぞれ工夫を凝らしながら教材準備に取り組んできているのが現状である。進路相談については、知的障害特別支援学校での教職経験の少ない教師は、これまでの進路相談の経過の引き継ぎ資料があっても、今後どのような指導が適切であるのか、経験のある進路指導主事や学年主任などベテラン教師に頼ることが多い。進路相談では、事前に必要な進路資料を用意するが、保護者の十分な理解が得られるような説明ができなかったり、新たな質問に戸惑ってしまったりして、後日改めて回答することもある。どの教師も生徒一人一人の思いに寄り添った進路を見付け、支援したいと思っているが、どのような支援をすればよいか自信を持って不安を抱えている。

このような現状から、高等部1年からの進路学習を充実させ、生徒自らが「現場実習をがんばりたい」「働いてみたい」という思いを持って進路学習に取り組もうとするような学習内容の検討と、生徒の思いの実現を後押しするような保護者への支援を行うことが必要であると考えた。

そこで、本研究では、進路学習と進路相談をサポートする教師向けの資料を作成し活用することで、前向きに進路学習に取り組もうとする生徒の育成を目指したいと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

知的障害特別支援学校高等部において、前向きに進路学習に取り組もうとする生徒を育成するために、3年間で身に付けたい力をまとめた「進路学習指導内容表」をベースに、経験の少ない教師向けの「進路学習指導資料」、「進路相談資料」の作成と活用を通して、その有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 基本的な考え方

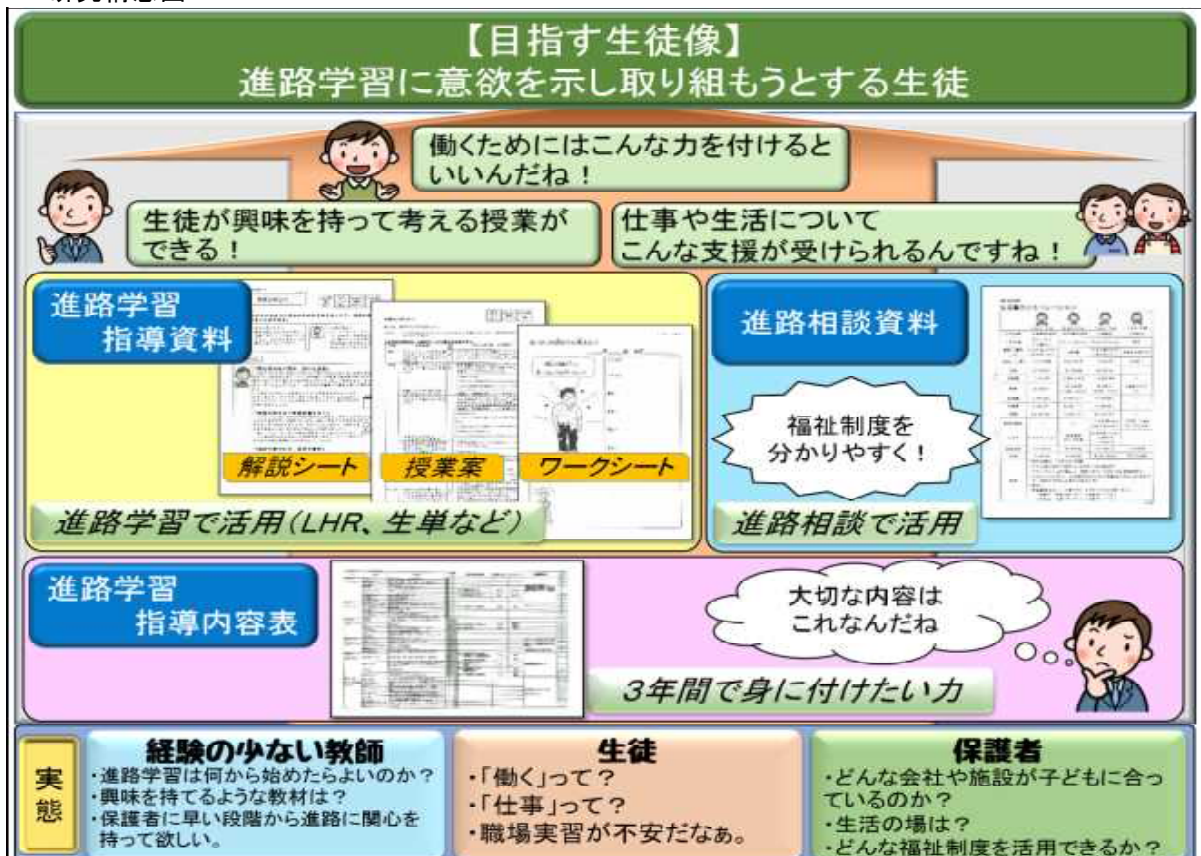
##### (1) 「進路学習に意欲を示し取り組もうとする生徒」とは

研究協力校では、一年次に2回、二年次に3回、三年次に2回の現場実習を行っている。実習期間は1～2週間である。実習に当たっては、ロングホームルームや生活単元学習の時間に、事前学習や事後学習を行っている。事前学習は、実習の準備を中心に、実習目標の検討、実習日誌の作成、服装や持ち物の確認を学習内容として取り上げている。事後学習では、実習の映像を使つての振り返りと反省、実習先へのお礼状の作成を行っている。事前学習や事後学習は、ロングホームルームの年間指導計画の中に位置付けているが、実習中に生徒が困らないようにできるだけ多くのことを伝えておきたいという教師の思いから、結果として生徒にとっては受け身の授業になりやすいのが現状である。本研究では、教師からの伝達的な授業ではなく、様々な題材において生徒の考えや思いを肯定的に捉え、それらの考えを書いたり発表したりする学習を通して、解決策を導き出していけるような授業を展開していく中で、進路学習に意欲を示し取り組んでいく生徒を「前向きに進路学習に取り組もうとする生徒」と捉える。

##### (2) 「進路学習」とは

進路指導は、生徒が自らの在り方や生き方を考え、将来に対する目的意識を持って、主体的に自己の進路を選択決定し、生涯にわたる自己実現を図っていくことができるような能力や態度を身に付けることができるよう、指導・援助することである。進路指導は大きく分けると、①進路についての学習、②体験実習、③進路相談の三つからなる。①の進路についての学習は、知的障害特別支援学校高等部では、主に作業学習やロングホームルーム、生活単元学習で行われているが、その他の教科の学習も進路指導の内容を大きく含んでいる。本研究では、進路指導における①の進路についての学習を「進路学習」と捉え、その内容を「進路学習指導内容表」にまとめ、その中でも特に学級担任が関わるロングホームルームでの指導に視点を置いて整理していく。

#### 2 研究構想図



### 3 教材の概要

#### (1) 進路学習指導内容表

進路学習指導内容表は、「進路学習指導資料」と「進路相談資料」を作成するための基礎資料となるものである（図1）。項目は「私たちの進路くあしたへのステップ」（全国特別支援学校知的障害教育校長会）を参考にした。知的障害特別支援学校高等部の3年間で身に付けたい力を項目、小項目、学習内容に整理した（図1-A）。全体を一度に見渡し、資料の関連が分かるようにA4一枚の資料にまとめた。

「対象学年」には、学習内容を扱う学年を示した。最優先で学習する必要のある学年には二重丸、できるだけ取り組んだ方が良いと思われる学年には丸印を付けた。研究協力校の生徒が、現場実習先から指摘された過去2年間分の課題を分析し、生徒の実態を考慮して示した（図1-B）。項目の「働くために」「進路を考える」「現場実習」の3項目については、一年次から体験する現場実習と大きく関わる内容であるので、生徒の実態に応じて学年に関係なく指導をしていく必要がある。

「進路学習指導資料」には、学習内容と本研究で作成した解説シート、授業案、ワークシートとの関連が分かるよう示した（図1-C）。「解説シート」には題材名を記載し、授業案とワークシートは番号で示した。

「進路相談資料」には、進路相談資料と項目との関連が分かるように示した（図1-D）。

「私たちの進路」の対応ページには、特別支援学校高等部で使用されている「私たちの進路」との関連が分かるように、対応するページを示した（図1-E）。

進路学習指導内容表 (特別支援学校高等部)				進路学習指導資料			進路相談資料	私たちの進路 対応ページ			
項目	小項目	学習内容	対象学年			解説シート	授業案	ワークシート			
			1	2	3						
① 自分のこと	自分のおいたち 自分の好きなこと、よいところ 自分のからだ 自分の家族 自分の家 家庭での仕事や手伝い 生活のスケジュール 休日の過ごし方 学校の友だち ぼくの夢、私の夢 家族の仕事 学校や家のまわりの仕事	生まれた頃のこと、小中学校の頃のこと	○							P5~7	
		自分のこと、長所・短所	○							P8, 9	
		身長、体重、血液型、服薬、視力	○								P10, 11
		家族構成、年齢	○								P12
		住所、電話番号、最寄りの駅やバス停	○								P13
		家族の一人として手伝いをする	◎				No. 9 手伝いをしよう	No. 9	No. 1, 10		P14
		一日・一週間のスケジュール	◎				No. 1 夏休みの過ごし方	No. 1	No. 1, 11		P15, 16
		週末・長期休業中の過ごし方	◎								P17, 18
		友だち、係・委員会	○								P19
		将来やりたいこと	○								P20
② 働くこと	学校のまわりの仕事 いろいろな仕事 仕事の仕方 働く人の一日 ものが作られて、私たちの所にとどくまで 職場見学 健康管理	将来やりたいこと	○							P24, 25	
		家族の仕事について調べる	○							P26, 27	
		学校内で働いている人	○			No. 5 仕事について考える①	No. 5	No. 5		P28~31	
		職名、職種	○								P32, 33
		働く場所、身に付ける物	○								P34~37
		働いている時間帯	○								P38~40
		カテゴリーから生産と流通を考える	○								P43~47
		仕事先調べ、自分が働きたい職種	○				No. 8 清潔な身なりを考えよう	No. 8	No. 9-1 No. 9-2		P48, 49
		生活習慣、食べ物と栄養、体力作り、紀通	◎				No. 4 身だしなみ	No. 4	No. 4		P50, 51
		③ 働くために	清潔 身だしなみ 人とのつきあい マナー 金銭の管理 進路を決めるに 進路先 進路をきめるまで 進路について相談できるところ 履歴書の書き方 資格の必要な職業	清潔な身なり	◎						
身だしなみ、衣服の調整、場に合った服装	◎										P62, 63
いじきつ、遠事、言葉遣いと態度	◎										P64, 65
電車、公共交通機関の利用、待ち合わせ	◎										P66, 67
い積、貯金、色々なカード	◎										P68, 69
自己進路を決めるために大切なこと	◎										P70
一般職業所、福祉サービス事業所、専門学校	◎										
進路決定までの流れ	◎										
学校以外の相談支援機関	○										
履歴書の様式	○										
④ 進路を考える	現場実習に行く前に 現場実習中の生活 実習日誌 実習後のまとめ	試験に合格する必要がある仕事	◎								
		実習先の情報、目標、面接の準備と受け方、通勤の仕方	◎			No. 2 現場実習の打合せ準備 自己紹介・通勤経路の確認 現場実習社行会の原稿	No. 2	No. 2		P73~76	
		活動中のトラブルの対処、実習中の日誌、健康管理、身だしなみ、休憩時間の過ごし方、休日の過ごし方	◎			No. 6 現場実習に向けて心構え	No. 6	No. 6			P77~81
		実習日誌の使い方	◎			No. 3 現場実習に向けて目標を考える	No. 3	No. 3			P82, 83
		実習の振り返り、卒業までに努力すること	◎			No. 7 現場実習の事後指導	No. 7	No. 7 No. 8			P84~86
		学校時代と卒業後の生活の違い	◎								P89~92
		健康診断、生活習慣病とストレス、清たばこ	◎								P93~96
		給料と生活費、貯金、懸賞商法	◎								P97~100
		人との付き合い、冠婚葬祭、男女交際	◎								P101~104
		休日の過ごし方	◎								P105~108
⑤ 現場実習	現場実習に行く前に 現場実習中の生活 実習日誌 実習後のまとめ	グループホームや社員寮での生活、一人暮らし	◎							P109~113	
		困った時に相談に乗ってくれる機関	◎								P114~116
		選挙権、税金、年金、療育手帳、給料、投票権	◎								P117~121
		人生の設計	◎								P122, 123
		福祉サービス事業所種類と特徴	◎								
		福祉サービス事業所の選び方のポイント	◎								
		一般級労までの手続きの流れ	◎								
		現場実習振り返りシート	◎								
		生活費のシミュレーション	◎								
		グループホーム	◎								
⑥ 社会人になる	社会人の生活 卒業後の健康管理 経済生活 人とのつきあい 余暇の過ごし方 生活の場 困ったときは 知っておきたいきまりや制度 将来のこと	現場実習の振り返り、卒業までに努力すること	◎								
		生活費のシミュレーション	◎								
		グループホーム	◎								
		現場実習の振り返り、卒業までに努力すること	◎								
		生活費のシミュレーション	◎								
		グループホーム	◎								
		現場実習の振り返り、卒業までに努力すること	◎								
		生活費のシミュレーション	◎								
		グループホーム	◎								
		現場実習の振り返り、卒業までに努力すること	◎								

図1 進路学習指導内容表



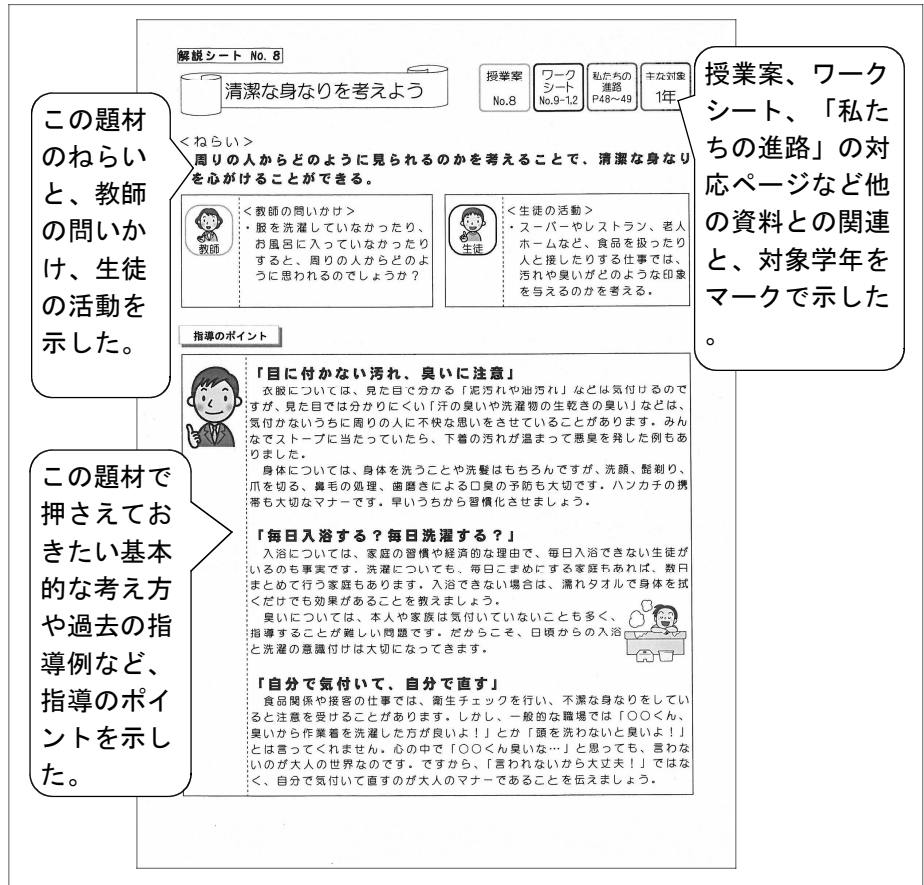
(2) 進路学習指導資料

進路学習指導資料は、進路学習指導内容をベースにして、指導のポイントをまとめた「解説シート」、解説シートを参考に授業の展開例を示した「授業案」、授業で使用する「ワークシート」の3点で構成されている。

「解説シート」には、本題材のねらいと、生徒の学習意欲を高めるような教師の問いかけ、生徒が自分の考えを書いたり発表したり表現する学習活動を示した。また、この題材で押さえておきたい基本的な考え方について、文献や過去の指導経験からまとめたものを指導のポイントとして示した(図2)。

「授業案」は、解説シートを参考に、生徒が興味を持って取り組もうとするような、一単位時間の授業の展開例を示した。指導上の留意点では、生徒の積極的な発言を促す発問例や言葉かけの例を示した(図3)。

どちらの資料も、特別支援学校の経験の少ない教師が取り組みやすいようにA4一枚にまとめ、字数が多くならないように考慮した。

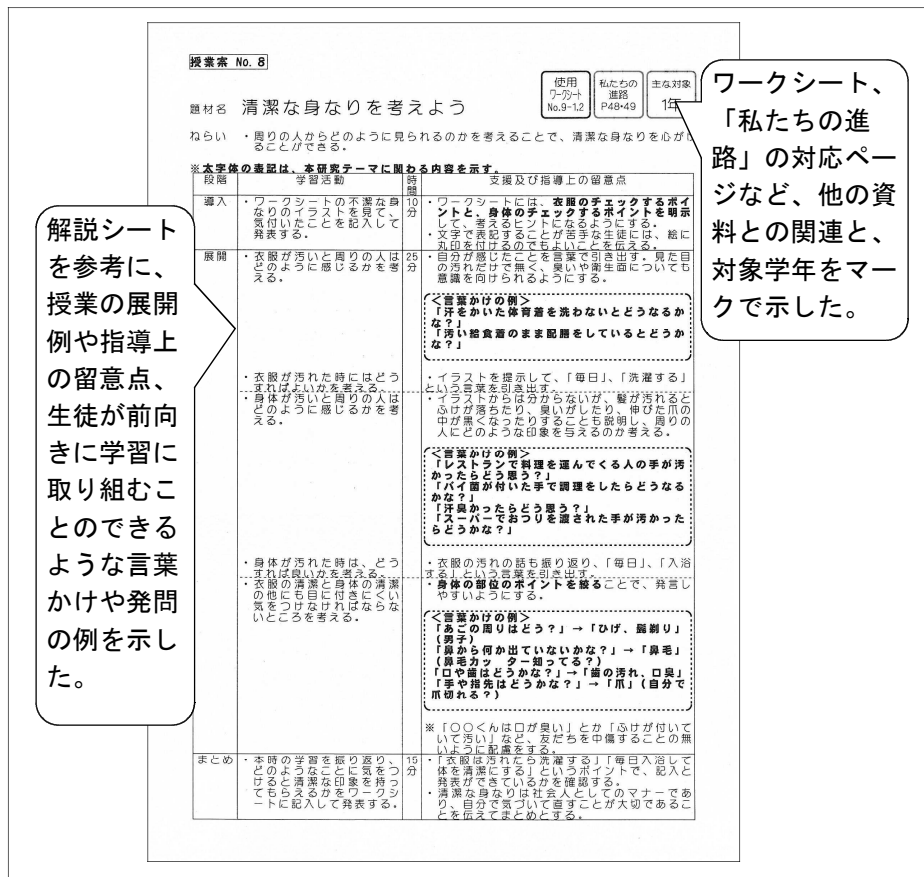


この題材のねらいと、教師の問いかけ、生徒の活動を示した。

この題材で押さえておきたい基本的な考え方や過去の指導例など、指導のポイントを示した。

授業案、ワークシート、「私たちの進路」の対応ページなど他の資料との関連と、対象学年をマークで示した。

図2 進路学習指導資料 解説シート



解説シートを参考に、授業の展開例や指導上の留意点、生徒が前向きに学習に取り組むことのできるような言葉かけや発問の例を示した。

ワークシート、「私たちの進路」の対応ページなど、他の資料との関連と、対象学年をマークで示した。

図3 進路学習指導資料 授業案

### (3) 進路相談資料

知的障害特別支援学校の進路指導では、一般事業所への就労と福祉サービス事業所の利用に大きく分けられる。それぞれの進路に合わせて、必要とされる福祉サービスも変わってくる。また、生徒の在住する地域によって名称が異なることもあり、経験の少ない教師や保護者には複雑で理解しにくいものである。事前に準備をして進路相談に臨んでも、保護者から新たな質問を受けて戸惑ったり、保護者にとって耳慣れない専門的な用語を分かりやすく伝えることの難しさに直面したりすることも多い。そこで進路相談資料では、分かりにくい福祉制度や専門用語の中から特別支援学校の在校生や卒業生に関わる部分を取り上げ、本人の特性と希望に添った進路を考えることに役立ち、本人や保護者に利用可能な福祉サービスの情報と、その手続きについて分かりやすく伝えるために工夫した（図4）。

進路相談資料

#### 福祉サービス事業所の種類と特徴

**卒業後に利用されている日中活動系の福祉サービスのうち、主なものを一枚のシートにまとめた。**

**就労移行支援** ※略して「就労移行」とも呼ばれる。

- ・一般事業所での就労を目指す人が対象で、働くために必要な知識や能力を身につける施設。
- ・施設外での職場実習も支援する。
- ・期間は2年間（1年の延長有り）。就労が難しかった場合には、A型やB型、地活に行くこともある。

**就労継続支援A型** ※略して「継続A」、「A型」とも呼ばれる。

- ・就労継続支援（雇用型）とも呼ばれ、就職活動を行ったが雇用に結びつかなかった人や、就労移行支援事業を利用したが雇用に結びつかなかった人が、雇用契約をして給料をもらいながら働く施設。
- ・一般事業所に近い形で運営している施設が多く、仕事の難易度は高い。

**就労継続支援B型** ※略して「継続B」、「B型」とも呼ばれる。

- ・就労継続支援（非雇用型）とも呼ばれ、一般就労が難しい人が雇用契約を結ばずに働く施設。
- ・利用するためにはアセスメントが必要になった。（※1）

**生活介護**

- ・日常生活上の支援や、創作的活動、生産活動の機会を提供する施設。身体機能や生活能力の向上のために必要な援助も行う。
- ・B型と併設されていることが多く、生産活動を重視している施設もある。

**地域活動支援センター** ※略して「地活（ちかつ）」とも呼ばれる。

- ・創作的活動または生産活動の機会の提供を行っている施設。施設によって生産活動に力を入れている度合いが異なる。
- ・市町村から委託を受けたNPO法人などが運営している。「障害福祉サービス事業」とは異なり、障害を6段階に分ける「障害支援区分認定」を受ける必要はなく、利用料の原則1割負担もない。

※1【就労継続支援B型の利用について】  
特別支援学校卒業後、就労継続支援B型を直接利用する場合、アセスメント（査定、評価）が必要。夏季休業中に就労移行支援事業所で実習をして判断する。市町村によって対応が異なっているので、在住する市町村役場の福祉課で確認することが必要。

**事業所の利用期限や一般就労への取組など、サービスごとの特徴を示した。**

**就労継続支援B型を利用するために必要なアセスメントについても示した。**

図4 進路相談資料（例：福祉サービス事業所の種類と特徴）

## IV 研究の計画と方法

### 1 授業実践及び進路相談の概要

「進路学習指導資料」を学級における進路学習で活用する。また、「進路相談資料」を進路相談の場面で活用する。

#### 【授業実践①】

対 象	研究協力校 高等部 第1学年1組、2組
実践期間	平成27年7月3日、7月15日
題 材 名	仕事について考える①
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身の回りに様々な仕事があることに気付く。</li> <li>・一つの仕事がたくさんの仕事から成り立っていることを知る。</li> </ul>

#### 【進路相談】

対 象	研究協力校 高等部 第1学年保護者
実践期間	平成27年7月1日～17日 個別面談週間
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内実習の様子を振り返り、実習の評価表から明らかになった課題を確認する。</li> <li>・課題の中で、外部の福祉サービスを受けることで解決可能な課題があるか検討し、必要に応じて利用可能な福祉サービスを知る。</li> </ul>

### 【授業実践②】

対 象	研究協力校 高等部 第1学年2組
実践期間	平成27年9月2日～4日
題 材 名	現場実習の心構え
ね ら い	・現場実習で起こりそうな場面を想定した学習を通して、現場実習に取り組むための基本的な心構えを知る。

### 【校内実習・現場実習】

対 象	研究協力校 高等部 第1学年1組、2組
実践期間	平成27年9月7日～18日
ね ら い	・毎日働くことを通して、社会人の生活を体験する。

### 【授業実践③】

対 象	研究協力校 高等部 第1学年1組、2組
実践期間	平成27年9月25日
題 材 名	現場実習を振り返ってみよう
ね ら い	・実習を振り返る学習を通して、次回の実習への意欲につなげる。

### 【授業実践④】

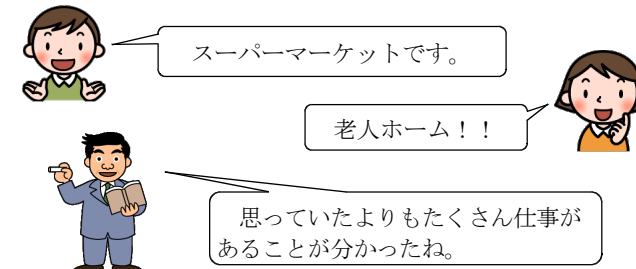

対 象	研究協力校 高等部 第1学年1組、2組
実践期間	平成27年10月30日、11月6日
題 材 名	清潔な身なりを考えよう
ね ら い	・周りの人からどのように見られているのかを考えることで、清潔な身なりを心がけることができる。

## 2 検証計画

検証の視点	方法
進路学習指導資料 ○進路学習で進路学習指導資料を活用することは、生徒が進路学習に意欲を示し取り組もうとするための手立てとして有効であったか。	・教師からの聞き取り ・ビデオ分析 ・観察
進路相談資料 ○教師が進路相談の場で進路相談資料を活用することは、本人の特性と希望に添った進路を考える上で有効であったか。	・教師からの聞き取り

## 3 実践

### (1) 授業実践① 題材名「仕事について考える①」

ねらい	・自分の身の回りに様々な仕事があることに気付く。 ・一つの仕事がたくさん仕事から成り立っていることを知る。
資料	解説シートNo. 5「仕事について考える①」、授業案No. 5、ワークシートNo. 5
主な学習内容	進路学習指導資料の活用場面・生徒の様子
○自分の身の回り にある店や建物をヒントに、どのような仕事があるかを考える。	<p>プレゼンテーションソフトを活用し、様々な仕事のイラストを提示する。どのような仕事か自由に発表する。</p>  

○自分の興味がある仕事を選び、その仕事について考える。

電車の仕事が好きです。駅員の仕事には、発車ベルを鳴らす仕事もあるんだね。

電車は車庫に入ったらどうなるんだろうね？

車庫で検査をします。

よく知ってるね！！

どんな仕事かな？ 1年2組 名前 \_\_\_\_\_

アナウンスをする 発車メロディをおす。 運転手

荷物を持つ 『電車の駅員』のしごと デザイン オレンジ電車

レンゲツの がくしん 電車のけんせ

＊わくがたりないときは、空枠してちよいです。

<その他の記述>

- ・実際の自動車メーカーの名前を挙げている生徒がいた。教師が肯定的に捉え、生徒に問いかけることで、近所の販売店の様子を五つ記述し、教師の「細かく書けてるね」の言葉かけに、とても満足そうな様子だった。
- ・関連する仕事が思い浮かばなかった生徒には、教師がヒントを出して支援した。また、他の生徒にも問いかけて、みんなで考える活動を行った。

○まとめ  
ワークシートに記入したことを発表する。

みんなの発表を聞きましたが、自分の知らない仕事はありましたか？全部知っている仕事でしたか？

知らないものもありました！！

看護師の仕事には、担架で運ぶ仕事もあるんだね！

一つの仕事の中に、色々な仕事があることが分かりましたね。


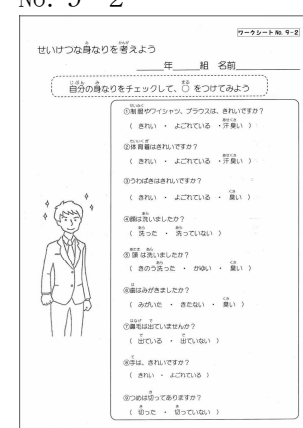
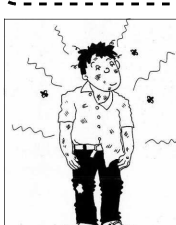



(2) 進路相談

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内実習の様子を振り返り、実習の評価表から明らかになった課題を確認する。</li> <li>・課題の中で、外部の福祉サービスを受けることで解決可能な課題があれば、必要に応じて利用可能な福祉サービスを知る。</li> </ul>
ケース①	<p>・進路相談資料「福祉サービス事業所の種類と特徴」「福祉サービス事業所の選び方のポイント」</p> <p>&lt;使用した学級担任からの聞き取り&gt;</p> <p>保護者から、「福祉サービス事業所のA型とB型の仕事は、どちらが難しいか」「A型と就労移行はどちらが一般就労に近いのか」という質問を受けて、進路相談資料「福祉サービス事業所の種類と特徴」と「福祉サービス事業所の選び方のポイント」を活用して説明をした。仕事の難易度については、A型も福祉サービス事業所であるため、障害の特性に合わせた配慮はしてくれるが、雇用契約を結んで働く会社のようなところなので、B型の福祉サービス事業所よりも仕事の難易度は高いことを説明した。一般事業所への就労を目指すのであれば、就労移行支援事業所の方が2年間という期限の中で、事業所への就労を目指した支援をしてしてくれることを伝えた。</p>



ケース ②	<p>・進路相談資料「卒業後の生活～グループホーム～」</p> <p>グループホームについて、「家賃はどのくらいかかるのか」「夜間に何かあった場合はどうなるのか」という質問を受けて、進路相談資料「卒業後の生活～グループホーム～」を活用して説明をした。家賃については、グループホームによってまちまちであり、金額に大きな幅があること、その他の光熱費や管理費が含まれていたり別途必要だったりするので、希望する地域のグループホームに各々問い合わせる必要があることを説明した。グループホームの様子をインターネットで公開している市町村もあるので、参考になることを説明した。夜間の管理については、グループホームによって管理体制は異なるので、生徒本人がどの程度の支援が必要なのか、それを満たすサービスがあるのか個別に確認する必要があることを説明した。</p>
ケース ③	<p>・進路相談資料「一般就労までの手続きの流れ」</p> <p>一般事業所への就労の手続きについて、「手続きの進行状況と今後の予定を知りたい」という質問を受けて、進路相談資料「一般就労までの手続きの流れ」を活用して説明をした。資料の図を参照し、「就労希望の意思表示」まで手続きが進んでいて、今後は求人票がハローワーク経由で学校に届き、それから応募の手続きに進むことを説明した。</p>

(3) 授業実践④ 題材名「清潔な身なりを考えよう」

ねらい	・周りの人からどのように見られるのかを考えることで、清潔な身なりを心がけることができる。
資料	<p>解説シートNo. 8 「清潔な身なり」、授業案No. 8、ワークシートNo. 9-1、No. 9-2</p> <p>ワークシートNo. 9-1</p>  <p>No. 9-2</p>  <p>※後日振り返りで使用</p>
主な学習内容	進路学習指導資料の活用場面・生徒の様子
○不潔な身なりのイラストを見て、気付いたことをワークシートに記入する。	<p>プレゼンテーションソフトを活用し、ワークシートのイラストを拡大して提示する。</p>  <p>イラストを見て、気になるところはどこかな？</p> <p>正解・不正解はないので、思ったことを書いてみましょう。</p> <p>生徒の言葉を肯定的に捉え、それぞれの思いを引き出す。</p> <p>シャツは？ <i>はがかしい</i>      シャツが、<i>でで</i>てるのか！  <i>み</i>ともない</p> <p>髪は？  <i>かみは、ぐちゃぐちゃしてへんぞ。</i></p>   

○衣服や身体が汚いと周りの人はどのように感じるか、汚れた時はどうすればよいかを考える。

スライド①



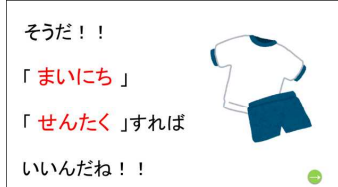
汚れているから変って思われる！



恥ずかしい！ 女子に嫌われる！

プレゼンテーションソフトで洗濯機のイラストと一緒に回転する音も聴けるようにした。

スライド②



あっ！洗濯だ！

汚いことは恥ずかしい。



スライド③



毎日お風呂！！

○衣服や身体以外にも気を付けなければならないところを考える。

「口の周り」、「鼻」、「手」など、意識を向けて欲しいポイントの名称を大きく掲示する。



口の周りやあご、鼻はどうか？

スライド④



ひげは、毎日剃ってる！



寄宿（舎）では電気シェーバーを使っています。

スライド⑤



恥ずかしい！



鼻毛切りを使ったことがあります。

爪はどうか？ 一人で切れるようになるといいですね。



○まとめ

学習を振り返り、どのようなことに気を付けると清潔な印象を持ってもらえるかをワークシートに記入して発表する。



どのようなことに気を付けると、清潔な良い感じがするでしょうか？

まいにちお風呂に入る



毎日ちゃんと洗濯機で洗濯する



現場実習先では、「お風呂に入った方がいいよ」や「洗濯した方がいいよ」とは言ってくれません。自分で気付くことが大事ですね。

## V 研究の結果と考察

### 1 進路学習指導資料

#### (1) 解説シートについて

解説の分量は、行数と文字数を制限してA4一枚に抑えた。使用したフォントは、丸みを帯びたものを使用し、キーワードとなる言葉は大きく表示した。学級担任からは、「解説書のような堅さがなくて、読んでみようかなと思わせる資料だった」との感想を得た。また、授業案、ワークシート、「私たちの進路」との関連をマークで表示したことは、お互いの関連性が分かるという点以外にも、「一つの題材が3枚の資料でコンパクトにまとまっていてよい」との感想を得た。教材を使ってもらうに当たり、まずは「読んでみようかな」という気持ちにさせることは重要であり、その点については効果があったと考える。

特別支援学校の経験が少ない教師に「私たちの進路」のみを使用しての授業を考えてもらった時、「このテキストだけで、一単位時間の授業がもつのだろうか」という不安の言葉が聞かれた。この解説シートの指導のポイントの項目に、これまでの進路指導のノウハウを明記したことで、特別支援学校の経験の少ない教師でも、卒業生を送り出した経験がある教師のように、生徒が卒業した後の姿をイメージして授業の中で具体例を挙げて話すことができた。そのときの生徒の様子は、教師の話に耳を傾けて真剣に聴いていた。すべての生徒が、卒業後の生活の様子や将来の自分の姿を思い浮かべることができたわけではないが、自分が経験した職場実習を思い出し、「ぼくはちゃんとできた」「注意を受けたことがあった」と記憶と重ね合わせながら考えて表現することができた。このような発言を引き出すことができたことから、この資料が生徒を進路学習に意欲を示し取り組ませることに有効であったと考える。

#### (2) 授業案について

進路学習指導資料を作成した当初は解説シートだけであったが、特別支援学校の経験の少ない教師にとっては、ねらいが分かってもどんな展開にすれば一単位時間の授業が組み立てられるかわからない様子であったため、解説シートを参考に授業案を作成した。学級担任からは、「この授業案によって授業の展開をイメージすることができた」との感想を得た。また、解説シートから自分で授業展開を考えることができた教師からも、「自分の考えた展開とは異なっていたが、別の展開例を参照することができて、題材の捉え方の幅を広げることができて参考になった」との感想を得た。

他の感想として、「年間に数回の進路学習があるが、実際に授業の計画をゼロから作成するのは難しいため、このセットがあることで指導がしやすくなった」「授業のプレゼンテーション資料を作成する場合でも、解説シートと授業案があると作成しやすいと思う」との意見があった。

授業実践①「仕事について考える①」での生徒の様子は、内容が難しいこともあって自分の考えが正しいのか間違っているのか不安で、なかなか積極的な発言がなかった。学級担任がこの授業案の発問例を活用して生徒の発言を引き出し、指導上の留意点を参考にして生徒からの発言を肯定的に受け止めたことで、次第に生徒が自由に発言をするようになり、学習に対して意欲を示し取り組もうとする姿を見ることができた。

特別支援学校の経験の少ない教師が、生徒の意見を肯定的に捉えることに留意した授業を行い、生徒が自ら考えて発言できるような発問をしたことは、「〇〇でなければならない」という教師から正答を求めるような場面を減らすことができた。それにより、生徒の自由な発言を引き出すきっかけになり、進路学習に前向きに取り組もうとする効果があったと考える。

#### (3) ワークシートについて

本研究で作成したワークシートは、極力文字を減らして大きめのフォントを使い、漢字にはふりがなを振って漢字の苦手な生徒に配慮した。また、記述での回答が難しいと思われる問いには選択肢を用意して、生徒が丸で囲めばよいような形式も取り入れた。分量は、A4又はA3一枚に収まるようにした。イラストを中心に作成したワークシートの活用場面では、生徒がワークシートに取り組む時の真剣な表情や、イラストについて気付いたことを友達同士で発言し合っている様子か

ら、気持ちが授業に向かっていることが読み取れた。しかし、一部のワークシートでは、生徒から「字が多い」というつぶやきも聞かれた。文字の読み書きに抵抗感のある生徒には、パッと目に入る文字の量で授業に向かう気持ちが大きく変わってきってしまうことが分かった。

授業実践④「清潔な身なりを考えよう」の授業では、不潔な身なりのイラストを見て気になることをまとめる活動があったが、自分の思いを文字で表現することの苦手な生徒は、ワークシートへ書き込む段階になるとそれまでの笑顔が苦笑いになり、姿勢も崩れて気持ちが離れかけている様子が見え始めた。文字で書けない場合は、イラストへ丸印を付けるのでもよいことを伝えると、すぐにワークシートに取り組む様子を見ることができた。その後の発表の場面では、自分が丸印を付けた部分について発表することができていた。文字で表現することだけではなく、丸印や線を引いて表現することで本人の前向きな学習意欲を見取することもでき、ワークシートの有用性は高いと考える。

教師からは、概ね「授業案に合わせたワークシートが用意されていて助かる」という感想を得た。これには、「具体的にワークシートが示されることで、生徒の活動がよりイメージできた」「自分だったらここを工夫したい」といったものが含まれていた。特別支援学校の経験の少ない教師にとって、日常の多忙な業務の中で新たに教材準備をするのは大変なことであり、それを具体的な教材として用意することの有用性を感じた。

また、生徒の実態に合わせて、ワークシートと一緒にプレゼンテーションソフトによる資料を作成して提示した。映像の資料があることで、生徒の視線や姿勢がより教師や教材に向かっている様子が見られた。すべての教材にプレゼンテーションソフトの資料を用意することはできなかったが、生徒の意欲を高める効果は高いと考える。

## 2 進路相談資料

「卒業後の生活～グループホーム～」 「生活費のシミュレーション」の資料は、グループホームでの生活がイメージできる資料であり、資料を使用した教師からは、「卒業後の生活に不安を感じている保護者に対して、積極的な説明ができたので助かった」という感想を得た。一方で、資料の中で給料や工賃についての具体的な金額が示されていることで、「自分の子どももこれだけのお金がもらえる」と勘違いしてしまう場合があるのではないかと指摘された。具体的な数値を用いた場合については、あくまでも一つの例であることを明示するようにした。

保護者からの相談の多くは、卒業後の生活の場所と、実際にかかる費用についての心配である。グループホームの細かい情報については、施設によって異なるので個別に確認するしかない。これは、教師が情報を知らないというわけではなく、福祉の実態としてグループホームの情報がまとまっていないことに要因がある。その実態をしっかりと保護者に伝えた上で、今後も生徒の実態を踏まえて個別に支援をしていく姿勢を示すことが、教師と保護者の信頼関係を保つ上で大切であり、さらには本人の知的障害の特性と希望に添った進路へ導いていくことにつながると思う。

## VI 研究のまとめ

### 1 成果

- 進路学習の場面で進路学習指導資料として、解説シート、授業案、ワークシートを活用したことは、特別支援学校の経験の少ない教師をサポートするとともに、生徒の授業の様子から生徒が意欲を示し進路学習に取り組もうとする姿を引き出す上で有効であったと考える。
- 進路相談の場面で進路相談資料を活用したことは、保護者の知りたい情報を提供することで卒業後の生活のイメージを持つ手助けができ、生徒自身の進路選択の幅を広げることにつながるため有効であったと考える。

## 2 課題

- 本研究は、早期の進路学習の充実ということで高等部1学年を対象に行ったが、他学年でも同様の視点で解説シート、授業案、ワークシートを作成して、実践を行いながら充実させていく必要がある。また、ワークシートに加えてプレゼンテーションソフトを使用して提示した資料については、イラストや音声の効果は大きく、学習への前向きな気持ちを高めることに効果があった。プレゼンテーションソフトの教材を併せて開発していくことでさらに充実した資料になると考える。
- 生徒や保護者に早い段階から進路に関心を持ってもらえるように、三者面談や家庭訪問の場面だけでなく、生徒の送迎で来校したちょっとした機会を利用するなど、相談の場面や機会を増やしていくことが大切である。

## Ⅶ より良い実践に向けて

進路学習の内容は、日常生活の指導、作業学習、保健体育、家庭、国語、数学の分野にも重なるところが多い。今回の研究で取り上げた進路学習の内容も含めて、学校全体の取組として各教科の関連を図りながら年間の指導計画に位置付けて、充実したものにしていくことが重要である。

### <参考文献>

- ・木村 彰孝 著 『特別支援教育No. 20「一人一人のニーズに応じた進路支援の在り方」』 東洋館出版社(2006)
- ・吉田 昌義、藤田 誠、関口 トシ子、進路指導21研究会 編著 『特別支援教育（知的障害・自閉症）における進路指導・支援』 ジアース教育新社(2009)
- ・全国特別支援学校知的障害教育校長会 編集 『私たちの進路くあしたへのステップ』 日本教育研究出版(2010)

### <担当指導主事>

矢野 勉 水谷 佳子